

令和2年12月18日

プレスリリース

報道関係 各位



令和3年度の米粉用米の需要

令和2年度の米粉用米の需要については、現時点では3万6千トンの見込値となり、前年度と同程度の数量となりました。

この見込値は、令和2年初頭からの世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本においても4月の緊急事態宣言により、各都道府県知事による不要不急の外出自粛要請が実施され、その影響による巣ごもり現象を反映して、家庭用の需要が増加した半面、業務用の需要が大幅に減少した結果と推測しております。

また、本年は東京オリンピック開催とそれに伴うインバウンド数の大幅な増加が見込まれ、グルテンフリー需要の大幅な増加を予測しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による開催延期や入国制限などにより、インバウンド数は昨年度に比較し、ほぼ壊滅的な数字となり、この影響も需要減少要素となっております。

一方で、米粉商品の市場は新商品の更なる拡大が見られ、大手販売系列では、イオンのPB（プライベートブランド）であるトップバリュが新たな米粉商品を開発しており、また中小の製造・販売事業者においても商品開発は堅調に進んでおります。

さらに、令和2年度の米粉用米の生産量は3万3千トンと見込まれ、これは令和元年度の2万8千トンに対し5千トンの増加となっております。

このように、米粉市場における商品開発の活発な動向は市場の健全性を表しており、また近年横ばいで推移していた米粉用米の生産量もようやく上向き傾向となり、アフターコロナにおける米粉市場にとって力強い環境が整いつつあると考えております。

日本米粉協会としてもこの認識のもと、さらなる努力をしていく所存であります。